

# 対キルギス共和国 国別援助方針

2012年12月

## 1. 援助の意義

アジアと欧州、ロシアと中東を結ぶ地政学的に重要な地域に位置するキルギスは、極めて親日的であり、国際場裏や中央アジアを舞台とした日本との協力を前向きである。キルギスでは、2005年及び2010年の二度にわたる政変を経て、2011年10月に大統領選挙が実施され、議会の権限を強化した新たな憲法に基づく政治体制を支持するアタムバエフ大統領の下、民主化を進めている。今後民主主義が定着し、国民が広くその果実を享受する社会を実現させるためには、経済的繁栄及び政治的安定が重要である。また、国際社会がアフガニスタンの自立と安定に向けて取り組んでいく中で、キルギスを含む近隣諸国の安定と協力は不可欠である。

一方、キルギスは、エネルギー資源に乏しく、経済成長の原動力となる産業に恵まれないこともあり、独立以降も安定した経済成長を遂げることができず、独立国家共同体（CIS）諸国の中でタジキスタンに次ぐ貧困国であり、特に運輸、電力等の経済インフラや教育、保健・医療などの社会インフラの老朽化が深刻な問題となっている。また近年、都市と農村地域間の経済格差が拡大しており、持続的かつ均衡のとれた経済発展の確保が課題となっている。

このような状況を踏まえ、我が国がキルギスに対してODAを通じた支援を行っていくことは、良好な二国間関係を維持・発展させるのみならず、キルギスが抱える様々な課題の解決を後押ししつつ、民主主義の定着を支援し、またアフガニスタンを含む地域全体の安定に寄与するという観点からも意義がある。

## 2. 援助の基本方針（大目標）：民主主義の定着を後押しする持続的かつ均衡のとれた経済成長への支援

キルギスは、新開発戦略<sup>1</sup>を策定し、道路・運輸などの経済インフラ、社会開発・貧困削減、地域間格差是正といった分野別の開発目標を掲げている。我が国としては、前述の援助の意義及び新開発戦略を踏まえ、運輸インフラの維持管理と農村開発を中心に持続的かつ均衡のとれた経済発展のための支援を行い、もってキルギスにおける民主主義の定着を後押しする。

## 3. 重点分野（中目標）

### （1）運輸インフラ維持管理と地域間格差の是正

---

<sup>1</sup> キルギス政府は、「Mid-term Development Programme of the Kyrgyz republic for 2012-2014」（キルギス発展中期プログラム：2012-2014年）ドラフト案を策定。2012年6月に議会にて採択予定。

キルギスが、持続的な発展を目指す上で、主に旧ソ連時代に整備された経済インフラの老朽化や都市と農村地域間の経済格差などの課題を克服することが重要である。この為、我が国は、物流の活性化や他の産業部門への波及効果が期待される運輸インフラにおいて、道路維持管理能力の強化や幹線道路の交通改善を中心とした支援を行う。また、近年の課題となっている都市と地方間の格差是正を図るため、農村開発を中心とした支援を行う。

## (2) 社会インフラの再構築

旧ソ連崩壊に伴い、同国の保健医療、教育分野は十分な国家予算が配分されず疲弊しているところ、これらの分野への支援を通じて、国民の生活水準の向上を目指す。特に2010年4月の政変及び6月の南部民族衝突により病院・学校など多くの公共施設が破壊されており、これらの復旧に協力する。

## 4. 留意事項

(1) 近年、省エネルギー分野や鉱物資源分野における二国間の協力が開始され、日本企業の進出や日本の技術・ノウハウの導入が期待されており、このような動きにも留意しつつ、ODAの効果的な実施に努める。

(2) 中央アジアは、貧困、環境、防災、テロ・麻薬など地域横断的な課題を抱えている。「中央アジア+日本」対話の下で、日本と中央アジア地域全体との協力を進めつつ、その一環としてアフガニスタンの安定のための地域協力も促進する。

(3) ほかの地域協力枠組みの動向にも留意しつつ、国際機関など他ドナーとも連携して効果的・効率的な援助の実施に努める。

(4) 支援事業の実施に際しては、現地の治安状況の把握に努め、関係者の安全対策に十分な注意を払う。

(了)

別紙： 事業展開計画